

激動の2013年決戦へ!

2012年12月23日
No.75

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連拡大中央委員会での武田雄飛丸君(法大3年・無期停学) アピール!

●1000人集会の何が「迷惑」か!

法政から処分撤回ということを経験もふくめてやっていきたいと思うのですが、僕がなぜこんなことになっちゃったのか、その上でなにをしようとしているのかということをお話したらなと思います。

僕は2010年に入学して、社会科学研究会がマルクス主義を学ぼうという横断幕をかがけていて、これはおもしろそうだなと、大学に行ってびっくりしたのは全然どこみてもないなと。マルクス学ぼうと思ってたら声をかけられたということがありまして、ピラを受け取っていつものように持ち帰って別にににするわけでもなく、ある日職員に呼びとめられて、おまえ今ピラ受け取ってただろと見せろとおまえアカだろうと言われたんですね。まさか今時いい年こいた大学職員に言われることはないだろうと思っていたんですね。

僕の一個上の洞口さんが僕と同じように学祭規制に反対してクラス討論をしたんですね。10分休みに討論してクラス決議を上げようとして、とくに学生もふつうに話しは聞いているし何ら別に休み時間中に変なことにはなかつたんですけども、普段リベラルぶっている僕も結構すきだった文化人類学の教授がそれを職員に通報しやがって、授業妨害だといって、洞口さんはそれが理由になって無期停学になったんですね。僕の今回の処分というのも学祭規制に反対してという面はでかいし、規制が出るたびにだれかが重処分にかけているというのは、解釈の余地なくあるんですね。

そのあと文化人類学の教授が通報したあとに授業でいったことというのは、ナチの大学における言論弾圧についてという。本当に皮肉でもなんでもなくしれっというふうに授業はじめるんですね。今の大学の教授の意識というのは頭がいい悪いではなく実際こんなふうになっちゃったんだというのがあると思うんですよ。

僕らが集会をやったり、やるときに職員や教授がうろろしながら、君たち迷惑なことやめなよと言っているんですよ。本当に今の大学、当たり前の矛盾、教授が自分が言っていることとやっていることの矛盾に気がつかないし、それはそれなんだと思考停止していることに学生の側もならされてきているというのがあると思う。僕も全学連がやっていることはおかげささう、革命が云々というのもあるし、学生が弾圧されているのもおたくらだけでしょうと思っていましたけれども、やっぱりクラス決議すらまともにあげられないし教授がそういうあり方に一言も何も思っていない。学生が集まったことに対して迷惑だと本気で言っているということにいちばん怖いなと。今回1000人集まった集会というのも、規制に絶対反対でないひとももちろんいると思うし、いろんな思いできていると思うんですよ。それを迷惑の一言でか



たづけるという。1000人集まった学生が全員カルトに洗脳された判断能力のないわけわかんない連中とっているに等しいと思うんですよ。ただ単に暴走行為というだけで人が集まるわけでもなし、今の大学は徹底的に学生の主体性をおとしめているし教授もそれののっかって本当に学生はかわいそうなやつらなんだ、全学連にだまされちゃうかもしれないと、ある種善意で動いている奴らがいっぱいいるわけですよ。

●御用学者弾劾に対する処分

あとやっぱり御用学者ですよ。僕が処分された理由は大久保利晃という、放射能影響研究所所長の露骨な御用学者である、こういうやつを大学に呼んで、市民も入れない、本当に地域に開かれたとって斎藤さんもいっていましたが、それはあくまでも資本、大企業に開かれた大学でしかない。

批判する人間は入れないし、学生に無関心を強制する、そういうあり方と一体だと思えますよ。そういう他学部だから入れないんだというあり方が平然と通用する、あるいは東北大でもどこでもそうなんですけど、まるで他学部の学生が大学内で何かいっちゃいかんという、本当にあれもおかしい話ですし、大飯原発には地元みん以外なにかいっちゃいけないのか、ひとりよがりなよそからくるやつのは聞く価値がないということもまかりとおっていますし、だからこそ僕の処分撤回闘争というのをなんで全国でやってほしいかという、同じ学生なんだという意識をこれを期に復活させていきたいなと思うんですよ。

僕もともすれば他大だからしかたないのかなとか、そういう発想というのはいくらでも出てくるんですけども、やっぱり自分が処分されてみんなが応援に来てくれて僕が東北大に行く過程で、やっぱり問題が一緒だしどこでも言っていることは当局の言葉なんですよ。他大生がどうのとか、そんな関係ないと最近実感をもってわかるようになってきました。そういうわけで先輩も処分され、今度は僕も処分され、こういうふうな闘争は続いていくんだなと。このスパイラルは阻止しないといけない。今回裁判闘争で弁護士さんとかも言っているんですけども、勝敗がつく場所は裁判じゃないということのを再三言われるという、だから皆さん力貸してくださいというわけなんですけども、裁判とキャンパスでの闘いというのを有機的に結合させて、むしろキャンパスが主導権を握る形でどんどん全国から傍聴に来てほしい。最大の目標といたら大久保を証人に立たせるということですよ。ああいう連中をどんどん証人に立たせて反原発闘争と一体でこの今の大学の学生弾圧という現状を打ち破っていけたらなというふうに思っています。これから僕もがんばっていきますし、全国の皆さんと一体で微力ですが協力させていただきます。

全学連拡大中央委員会での石田真弓君 (全学連副委員長・東北大) アピール!

●12・16情勢と対決した自治会選挙!

全学連副委員長の石田です。僕も統一候補の後援会の一員として、東北大自治会選挙をやりました

12・16との対決ということの中で、今の私たちの東北大学の学生自治会の執行部選挙が行われたということがあって、東北大生が「俺も第3極として出ればよかったかなー」みたいなことを歩いて話していることがあったりとか、あるいは「学生自治会が言っていることってだいたい今の世論の声だよー」みたいなことを食堂で言っているとか。今の情勢との関係で、私たち学生自治会の執行部が見られているということは改めてはっきり確認すべきかなと思いますし、全学連というのがそういうものとして見られているということが重要なと思っています。

他方で、今回の投票がブルジョア選挙みたいな投票じゃないと思うんです。というのは、結局今の、選挙のときだけ大衆の前に出てきてきれいなことを言って、選挙が終わった瞬間大衆の前からいなくなる。投票したら、彼らマニフェストとか掲げていますが全部ひっくり返していくということが、民主党政権で明らかになったことですよ。ある労働者が「民主党になってもなにも変わらないということがわかっただけでも、前回の選挙は良かったですよー」みたいなことをタクシの労働者が言っていたのを聞いたらしくて、本当にそうだと。白紙委任じゃないですか。入れたらもう勝手にやられるという。だけど、やっぱりそうじゃないんだと。うちの選挙は、当局からのパッシングということがものすごいある中で、僕らも毎日アジって、「うるさい」とか言われて、批判されるわけじゃないじゃないですか。「言っていることわからない」とか批判される。だけど、僕らは全部そういうのを引き受けてやるわけですよ。批判されるというのも引き受けて、信任されて、その次の日からキャンパスに立つわけですよ。そして、実行していく。そういう意味では、600の票が信任したということなんですよ。キャンパスで我々が毎日立ち続けて、アジって、闘う。当局と非和解的に闘うということ信任したということを僕としてははっきりさせたい。

学生自治会というのは、いろんな権利が昔はあったわけです。団交ができるとか、クラスがあって自治会費が集められるとか。当局がそれを粉碎するという過程で、そもそもクラスというものが解体されていくとか、振り込め詐欺なんだみたいな形でいろいろやられてきた面はあるんですけど、やっぱり、選挙ということをもって、大衆的支持が学生自治会にあるんだということ非公認化されてから一貫して示してきたということかなというふうに思います。

●1000人の全学連部隊を登場させよう!

もう一点重要なことは、運動とか、大衆的支持とかいった場合に、やっぱりそれは、学生自治会執行部という形で人格的に表現されるということだと思えます。ネガティブキャンペーンが張られるのは、人格を叩き折っていくということとしても僕はあるかなと思っています。

前に深谷君に対する攻撃ということがあって、ある種学問がし

たいということをもって闘うことが弾圧されるということが目の前で起きているわけですよね。仲間が大学からたたき出されるかもしれないという中で、自分がそこに立てるのかどうかという、そういうものをもう一回乗り越えて闘ったのが今回の選挙だったんだということを改めてはっきりさせたいと思っています。

連中の攻撃っていうのは、もう人間関係を根本からへし折っていくという。こういうことが、全社会的にやられてきたわけじゃないですか。こういうことが許せないっていう思いが僕らにはあって、だけどこれ乗り越えていくためにはやっぱり団結するしかないということが核心にはあって。自負するわけじゃないですけど、反原発闘争も一生懸命やってきて、本当にいろんな人の声を体現してやってきて、だけど、もう一步、それを人格的に組織として表現していくというところに全学連が進んでいく。1000人の部隊を登場させていくということに核心問題が込められているというふうに思うんです。

青野君に体現されていますけれども、本当に全国の仲間がいるから闘えるんだという、自分も闘うから全国の仲間もがんばろうという呼びかけ。このことに感動するじゃないですか。本当に僕らの社会を変革していく力というのは、こういうところにあると思うんですよ。僕ら全学連という組織が、自身と確信をもって、一緒に運動をしようということ呼びかけていくということが重要なことですよ、求心力を持つかなと思っています。

●マルクス主義にこだわろう!

もう一点だけ。その団結をどうつくりだすかと言ったときに、僕らはマルクス主義にこだわるということだと思えます。もちろん、学生自治会というのは、いろんな思いがあって結集してくると思うんです。反原発の人もいれば、サークル規制反対の人もいたり、あるいは学問ということを考えたりということはあると思うんですけど、やっぱり指導部はマルクス主義で武装されていくということが非常に大事です。というのは、当局も人間だし対話できるんじゃないか、みたいなね。しかし、現実には非和解の人間がいるわけじゃないですか。闘いの中で日々敵が出てきて、非和解だって宣言してくるということを科学的に徹底的に明らかにするのがマルクス主義だということです。で、この非和解性の根本を打ち砕いていくという。非和解性といったときに、仲間は誰なのかということも、またはっきりさせるのがマルクス主義です。こういうことを、まず我々が前提にすえていくということが、全学連が歴史的につかんできた「学問とは何か」ということの一つの決定的な要素だと思っています。

なので、やっぱり我々としては、この社会を革命していくというところに立ちきって、仲間を徹底的にはっきりさせていく。打倒する相手は誰なのかということ徹底的にはっきりしきったときにやっぱり仲間もはっきりしてくる。そういう関係をもう一回改めてつかみとってきた過程なのかなと思っています。そういう新執行部が立ったところで僕は本当に勝利的な総括をみなさんに返したいと思っています。

みなさんとの団結にかけて、僕も東北大学で3人の体制、とくに新しい2人ということでは支えていきたいと思っていますので、みなさんもぜひ、東北大学の闘いに期待してください。

